



発行:青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課 (Email:bunkagakushu@city.aomori.aomori.jp)

〒030-0801 青森市新町 1丁目 3-7 TEL:017-718-1384 FAX:017-718-1372

【令和5年も残り2週間余り!】

新型コロナウイルス感染症の影響から、解放されつつある令和5年も、あと2週間余りとなりました。地域学校協働活動が徐々に復活し、再開・リニューアル・新しいスタンダード等の言葉を多く聞き、活動の勢いを感じた年末となりました。令和5年度、新たに4中学校区を加えてスタートしたCSも、徐々に軌道に乗り、実りある学校運営協議会を開催しているように感じます。皆様のご協力、本当にありがとうございました。

〈地域学校協働活動に係る事務連絡会議〉お疲れ様でした! R5.11.29



工藤 知久子氏 [県生涯学習課 統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員] より、地域学校協働活動の事業説明後、学校での活動事例の紹介やボランティアの年間スケジュール、ボランティア依頼の流れについて話していただきました。また、浦町中学校区 CS の実践についてもお話していただきました。活動を通して、**継続と同時に新しいつながり**を作ることの大切さやコロナ禍等の**有事の際でもできる活動の工夫や日々の改善**、そして推進員の**役割認識とスキルアップ**が重要であることをお話してくださいました。当日は、教頭先生・推進員・サポーター等、あわせて74名という参加者があり、今までの会議では最大規模となりました。

さらに後半のワークショップでは、各中学校区でたっぷりと語ってもらいました。推進員から、普段連絡は取るが、教頭先生とこんなに**じっくりしゃべり合った**ことはない、すごくよかった。という声をたくさんいただきました。**やっぱりワークショップ → いいですね!**

～会議後の参加者の声をまとめてみました～ (人数の多かった順です)

《困っていること》

- 1 ボランティアの人材不足
- 2 推進員の人材不足
- 3 地域とつながる場や機会がない
- 4 人材の高齢化
- 5 推進員の役割とは何か
- 6 ボランティアの固定化
- 7 予算をどうするか
- 8 推進員の負担が大きい
- 9 PTA と協働活動の違いや関わり方



《その他》

- ・学校はやること一杯ですが、バランスとってやります。
- ・地区内ワークショップが楽しくて、効果的だ。
- ・先生方の負担が少しでも減るといい。
- ・子どものワークショップ参加もありかな。
- など、貴重なご意見をいただきました。

《今後の取組》

- 1 広報・周知活動をみんなでもっとやる。
- 2 人材確保のために人材リスト・バンクを作る。
- 3 地域(町会等)や団体に積極的に働きかける。
- 4 年間のボランティアスケジュールを作る。
- 5 ICT 等でボランティアまでの流れを簡略化。
- 6 ほっとカフェ(交流の場づくり)はとてもいい。
- 7 先生方への周知と意識改革を図る。
- 8 改めて自校のニーズの把握をしっかりとやる。
- 9 前向きな気持ちを持ち自分から動く。

※課題に対する**答えとなりそうな取組**がたくさんありました。

地域学校協働活動やPTA活動は、どちらもボランティア活動ですが、協働活動は地域をも巻き込んだ包括的な活動です。今後は、PTA活動と融合した柔軟な活動が求められるものと思われま

CSあれこれ ～ファシリテート編～

[ファシリテート：物事を円滑に進め、促進すること]

熟議(ワークショップ)の出来を左右するのが、その熟議全体をファシリテートする人、また各グループの協議をファシリテートする人の力量に左右されるといっても過言ではありません。今回はいろいろな場面で役立つファシリテートカアップのための資料を提供します。※まだまだ様々な手法があります。一つの例です。

【求められるスキル】 → つまり、身に付けてほしい力

★場のデザイン(議論の場や構成を生み出す力)

- ・会議の日時、場所、目的、議題、心構え等の確認。
- ・会議のルールの設定。
- ・相手を非難せず認める。発言は1分。説明は3分。全員発言する。人の話を遮らない。質問は最後に。決まったことを蒸し返さない。などなど。

★対人関係(意見を受け止め、引き出す、新たな問いを立てる力)

- ・自己紹介、アイスブレイク、近況報告等を必要に応じて取り入れる。
- ・安心して発言できる雰囲気づくりをする。
- ・中立を守る。ずれた意見もさりげなく戻す。
- ・隠れたその人の思いを引き出す努力をする。

★構造化(議論をかみ合わせて整理する力)

- ・様々な意見を記録整理し、見える化・図解化する。
- ・色分け、グループ分けして、小見出しをつける。
- ・黒板、ホワイトボード、スクリーン、パワーポイント等の活用。
- ・付箋紙 & マジック、模造紙、PCの活用。

★合意形成(意見をまとめ、わかち合う力)

- ・行き詰まったら最初の目的に立ち返る。
- ・かみ合わない意見はよりふさわしいものを考える。
- ・対立場面は、双方視点の切り替えを促す。
- ・どうしてもだめなら、第三者、責任者一任もありうる。



【一般的な役割】 → 事前に考えておくべき、準備

ワークショップを形作っていく過程として、基本の4段階「導入→知る活動→創る活動→まとめ」があります。この過程を行っていくために、役割として次のようなシナリオを準備しておくことが大切となります。

- ★目的への誘導・・・何を決めるのか、議論の最終結果を明示して、話し合いに向かわせる。
- ★雰囲気づくり・・・冷静に判断・対応し、議論しやすい雰囲気をつくり出す。
- ★意見交換・・・中立の立場で、参加者全員の意見交換を促進させる。
- ★タイムキーパー・・・細かな時間設定をし、且つ、中断や延長に対して臨機応変に適切に判断する。
- ★整理、まとめ・・・要点を簡潔にとらえ、結論に至ったプロセスを整理する。
- ★コンセンサス・・・最終的な結果についてコンセンサス(合意)をとり、記録として残していく。



熟議(ワークショップ)終了後、振り返りをし、自らの振る舞いや状況認識等を組み直し、次回に備える。

◎学校訪問を終えて

12月18日を最後に今年度の学校訪問が終了しました。皆様のご協力のもと市内61の小・中学校を無事訪問することができ、大変ありがたく思っております。各校とも「地域と共に歩む」という思いが一層強まり、それに応えていくのが推進員の皆さんなのだ、ということを感じました。コロナ明け、今後も持続可能な息の長い地域学校協働活動を目指して、がんばっていききたいと思います。